

算 数 通 信 テーマ：世羅小 河野先生の実践（社会科自由進度学習）

第 41 号に続いて、世羅小 5 年担任 河野先生の実践です。教科は社会科、単元は「工業生産を支える運輸と貿易」（6 時間扱い）の学習です。能動的な学び手を育てるうえで、子どもたちに多様な学習形態を経験させることは必要なことです。それは、全教科において考え、取り組んでいかなければなりません。その一例として、河野先生の世界科自由進度学習を紹介し、どのような考えで、どのように取り組んでいくのか、その大よそをお伝えできればと思います。

学習の大まかな流れは、次の通りです。

①オリエンテーション ➡②児童各自による ➡③調べ学習 ➡④（チェックテスト）
➡⑤レポートの作成 ➡⑥口頭試問

- ・①では、「学習の手引き」の内容を説明します。
 - ・②では、①の説明を受けて、児童各自がこれからの学習計画を立てます。
 - ・③の調べ学習は、示された課題に対してまとめを行います。その際、「学習計画」に示された教科書、資料集、スライド、動画などを使うことになります。1 つの課題に対して、ノート 1 ページ以上にまとめることが求められています。
 - ・学習内容の理解度を確かめるテストになります。調べ学習が終われば、いつ受けてもよいことにしています。
 - ・レポート作成にあたっては、教科書に示されたモデルを参考にします。
 - ・レポートをすべて書き終えた児童から受けることができるようにしています。
- 各自の進捗状況は、毎時間終了時に行うノートとふり返しシートの提出によって、確認することにしています。

次に、①オリエンテーションについて説明します。

学習の始まりにあたって、子どもたちに、「学習の手引き」（B4 版（表裏印刷））を配ります。内容は、13 項目から成っています。

- 1 学習にかかる時間
- 2 単元の目標
- 3 その学習を通して身につけてほしい力
- 4 社会科の学び方で大切にしたいこと
（ノート作業の参考にする）
- 5 調べ学習のルール

- 6 学習の流れ
- 7 レポート作成について
- 8 提出物について
- 9 ノート作成について
- 10 学習計画
- 11 ふり返しシート
- 12 毎時間のふり返りの視点

調べ学習に提示されている課題は、どのようなものでしょうか。（課題文：太字）

運輸と貿易の関連

○運輸や貿易について調べよう。

全国へ運ばれる工業製品

○工場で作られた工業製品は、どのように運ばれるのだろうか。

日本の輸入の特色

○日本はどこからどのようなものを輸入しているのだろうか。

日本の輸出の特色

○日本はどこへ、どのようなものを輸出しているのだろうか。

これからの社会に向けて

○資源を多く輸入している日本では、これからのためにどのような取り組みが進められているのだろうか。

河野先生の御了解を得て、オリエンテーションで使用した「学習の手引き」を添付しています。

学習計画を拝見して思ったこと

- ・本学習の魅力は、なんといっても、調べ学習にあります。まとめた時間、資料を読み込んでノートにまとめる活動は、一人学習の必須です。将来の勉強にも必要な経験です。
- ・つつい知識を習得させなければということで、勢い一斉授業やプリント学習で授業を進めがちです。そして、最後のまとめの段階で、学んだことをまとめるか発展させる活動を行わせます。そのような学習の仕方は、受け身学習を身につけさせるだけだと思います。1 年間に 10 時間程度、あるいは学期に 5 時間程度、4 年生以上の社会科では、河野先生の実践のようなまとめた時間の調べ学習を行わせてみてはどうでしょう。
- ・その際、ふだんの授業が大事だと思います。社会科の問題解決学習（例）です。

- ① 資料を通して本時の課題を作る。
- ② 課題に対する資料を紹介する。（教科書・資料集・動画など）
- ③ 解決に取り組む。自力・他者との協働
- ④ 全体で共有化する。
- ⑤ 自分の言葉でまとめる。短い言葉・キーワード化
- ⑥ 学習方法を含め、振り返る。

このふだんの学習は、一人学習に取り組むことを想定して行う必要があると思います。

- ・自由進度学習で懸念するのは、毎時間の「共有化」が不足していることです。その対応として、課題に対する自分の発見を、スプレッドシートに書き込ませ、投稿させます。それを、次時の始まり 5 分間程度で、児童各自に読み取らせる活動を入れたり、教師が少し解説したりすることで、不安が解消できるのではないのでしょうか。